



日本植物分類学会 ニュースレター

No. 23

Nov. 2006

目 次

伊藤洋先生ご逝去のお知らせ	2
会長および評議員選挙の結果	2
評議員追加選出結果	3
次期の庶務幹事, 会計幹事, ニュースレター編集幹事	3
諸報告	4
日本植物分類学会 2006 年度第 2 回評議員会議事抄録	4
日本植物分類学会, (旧) 日本植物分類学会および植物分類地理学会の 名誉会員について	5
庶務報告 (2006 年 8 月～ 10 月)	7
お知らせ	7
日本植物分類学会第 6 回大会および 2007 年度総会のご案内	7
会費納入のお願い	10
平成 18 年度日本植物分類学会講演会のご案内	11
書評依頼図書	12
本の紹介	13
「キヨスミウツボの生活 神戸市押部谷町木見新池での保全のとりくみから」	13
いきもの便り	14
ドーヴァー海峡を渡るヒマラヤンモンズーンを夢見る異国の植物たち	14
日本植物分類学会第 6 回大会「発表・参加申込書」	15
会員消息	16

伊藤洋先生ご逝去のお知らせ

会長 邑田 仁

東京教育大学名誉教授 伊藤 洋先生は97歳の天寿を全うされ、平成18年9月2日逝去されました。ここに謹んでお知らせいたします。

伊藤 洋先生はシダ植物の研究者として活躍し、多くの後進を育てられました。また日本植物分類学会(旧)の発展に貢献され、名誉会員となっておられましたが、ご高齢のため退会されました。先生の追悼文は和文誌「分類」に掲載させていただきます。

伊藤先生のご冥福をお祈り申し上げます。

会長および評議員選挙の結果

選挙管理委員長 高橋英樹

日本植物分類学会ニュースレター No.22 で公示した日本植物分類学会会長および評議員選挙の開票結果についてお知らせします。開票は2006年10月9日(月)、札幌市の北海道大学総合博物館2階共同研究室において、午後1時半より本学会会員の東 隆行氏、持田 誠氏の立会いのもとで行いました。

藤井伸二、綿野泰行、梶田 忠、門田裕一の各氏は同票数でしたが、「役員等の選出についての細則」第4条の規定により抽選を行った結果、藤井伸二氏と綿野泰行氏に決まりました。

【会長】

当選	邑田 仁	38
次点	戸部 博	7
	永益英敏	7

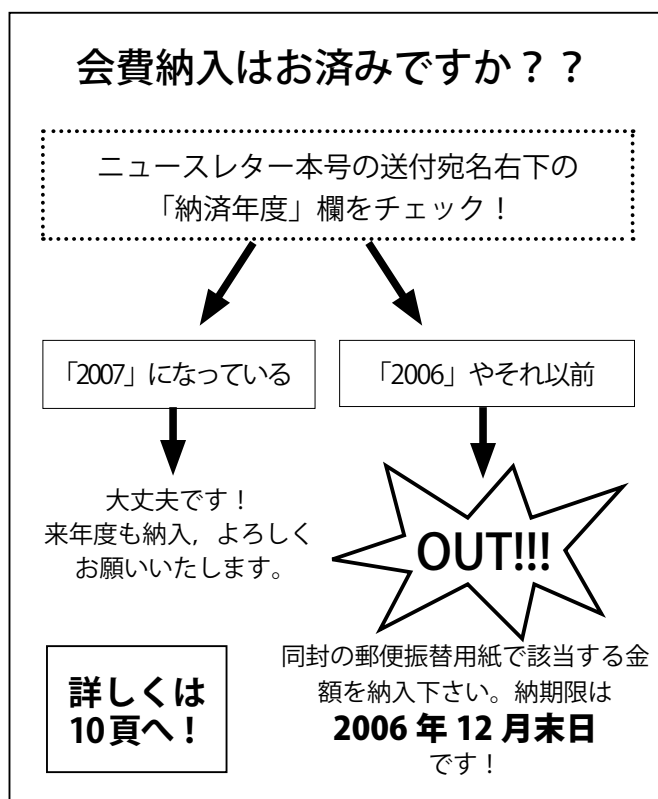
(有効投票数 101 票)

【評議員】

当選	永益英敏	31
	村上哲明	30
	田村 実	23
	西田佐知子	23
	西田治文	22
	高宮正之	20
	藤井伸二	19
	綿野泰行	19

次点	梶田 忠	19
	門田裕一	19

(有効投票数 101 票)



評議員追加選出結果

次期評議員 永益英敏

選挙管理委員長の報告にありますように、次期評議員として8名（高宮正之、田村 実、永益英敏、西田佐知子、西田治文、藤井伸二、村上哲明、綿野泰行）が選挙により選出されました。「役員等の選出についての細則」第4条の規定に基づき、この8名の合議により次の4名の方々を次期評議員として追加選出しましたので報告いたします。

梶田 忠（千葉大）、黒沢高秀（福島大）、出口博則（広島大）、野崎久義（東京大）

次期の庶務幹事、会計幹事、ニュースレター編集幹事

庶務幹事 黒沢高秀

上越教育大学の五百川さんが次期の庶務幹事、国立科学博物館の海老原さんが会計幹事、北大植物園の東さんがニュースレター編集幹事をお引き受け下さることになりました。これに伴い、2007年1月1日より学会事務局の連絡先、会計連絡先、ニュースレター原稿送付先が、下記のように変更になります。お間違えのないよう、ご注意下さい。

事務局・庶務幹事（会務全般）

五百川 裕（いおかわ ゆう）

〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1

上越教育大学 自然系教育講座

電話：025-521-3430

ファクシミリ：025-521-3430

電子メール：iokawa@juen.ac.jp

会計幹事（入会申し込み、住所変更、退会届、会費納入、購読申し込みなど）

海老原 淳（えびはら あつし）

〒305-0005 茨城県つくば市天久保4-1-1

国立科学博物館 植物研究部

電話：029-853-8988

ファクシミリ：029-853-8401

電子メール：ebihara@kahaku.go.jp

ニュースレター編集幹事（ニュースレター原稿送付先）

東 隆行（あずま たかゆき）

〒060-0003 北海道札幌市中央区北3条西8

北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター植物園

電話：011-221-0066

ファクシミリ：011-221-0664

電子メール：azuma@fsc.hokudai.ac.jp

編集後のつづやき

ということで、東さんにバトンタッチ!!皆様この2年間、どうもありがとうございました。記事をご提供下さった皆様、大変お世話になりました。引き続き、NLをどうぞよろしくお願いいたします。では！ by 編集人

諸報告

日本植物分類学会 2006 年度第 2 回評議員会議事抄録

庶務幹事 黒沢高秀

会場：熊本大学くすのき会館レセプションルーム

日時：2006 年 9 月 15 日 11:30 ~ 13:30

参加者

評議員：() 内は被委任者 評議員出席 6, 委任状出席 5

出席 (6 名)：今市涼子, 梶田 忠, 高宮正之, 藤井伸二, 村上哲明, 綿野泰行

欠席 (6 名)：秋山弘之, 植田邦彦 (議長に委任), 小菅桂子 (議長に委任), 高橋英樹 (議長に委任), 出口博則 (議長に委任), 西田佐知子 (梶田 忠に委任)

幹事会等：() 内は役職

出席 (10 名)：邑田 仁 (会長), 黒沢高秀 (庶務), 田中法生 (会計), 鈴木 武 (図書), 三島美佐子 (ニュースレター担当), 菅原 敬 (植物分類学関連学会連絡会・日本分類学会 連合担当), 西田治文 (自然史学会連合担当), 加藤雅啓 (学会賞選考委員会), 伊藤元己 (植物データベース専門委員会), 矢原徹一 (絶滅危惧植物・移入植物専門第一委員会)

欠席 (6 名)：加藤英寿 (ホームページ担当), 岡田博 (編集委員長), 秋山 忍 (和文誌編集), 田村 実 (講演会担当), 柏谷博之 (絶滅危惧植物・移入植物専門第二委員会), 大橋広好 (国際植物命名規約邦訳委員会)

1. 評議員会開催にあたり, 邑田会長から挨拶があった。
2. 黒沢庶務幹事により, 定足数が確認された。会長・評議員出席 7, 委任状出席 5 で本評議員会は成立した。
3. 評議員会議長として村上哲明氏が選出された。議事録署名人として今市涼子氏と高宮正之氏が選出された。
4. 報告事項
 - 4.1 国際植物命名規約邦訳委員会について：委員会の構成や邦訳状況の報告があった。
 - 4.2 学会交換雑誌の交換先について：交換雑誌の状況の報告があった。今後, 交換雑誌の受取がない団体等について, 評議員会で交換雑誌の継続の可否を協議することとなった。
 - 4.3 寄贈・交換雑誌等の寄託について：寄贈・交換雑誌の現在の管理状況や経緯について説明があった。過去の経緯の再確認を行うとともに, 現状の調査を進めることとなった。
 - 4.4 植物分類地理学会の特許庁学術団体指
- 定取消について：植物分類地理学会の特許庁学術団体指定が平成 13 年 5 月 12 日付で取消となったことが報告された。日本植物分類学会として指定手続きをすることとなった。
- 4.5 会費滞納者への督促について：発送停止も含めた措置により, 効果のある督促を工夫してゆくこととなった。
- 4.6 その他報告事項
 - (1) 英文誌の編集状況：刊行状況の説明と, 定期学術刊行物発行助成は不採択だったことが報告された。APG の国際化について意見が交わされた。
 - (2) 和文誌の編集状況：編集状況が報告された。和文誌と英文誌のバランスについて, 意見が交わされた。和文誌と英文誌にかかる費用や労力のバランスについて評議員の意向調査が行われた。結果は現在のバランスのままがよいが 6 名, 英文誌にこれまで以上に重きを置くべきが 0 名, 和文誌にこれまでで

上に重きを置くべきが0名であった。和文誌に今後掲載した方がよいものについて、いくつか提案や例示があった。

(3) 学会賞の募集について

(4) Linnaeus 生誕記念について

5. 審議事項

5.1 大会時における学会賞等の表彰について

邑田会長より学会賞授賞に関する大会事務局への要望事項についての案が説明された。奨励賞の受賞者への副賞を1万円とすること、記念品については大会事務局と相談することとなった。なお、論文賞の選考は委員会が行うことであるが、評議員会としては論文賞の対象は巻ではなく出版年で区切ってしまってもよい意見であることが確認された。

5.2 第7回大会(2008年)の開催地について

邑田会長より第7回大会を首都大学東京で行うことが提案され、承認された。

5.3 名誉会員の推薦準備について

黒沢庶務幹事より、会則第5条にもとづき名誉会員の推薦準備を進めることが提案され、承認された。

5.4 科学研究費補助金(基盤研究等)の審査委員候補者の情報提供について

黒沢庶務幹事より科学研究費補助金(基盤研究等)の審査委員候補者の情報提供について、昨年は学会からの推薦を見送ったことが報告された。矢原委員長より今年度より基盤Cの研究代表者も自動的に審査委員候補者に登録されるという補足説明があった。学会独自の選考をする必要が生じたときは、評議員会で改めて審議することとなった。

日本植物分類学会, (旧) 日本植物分類学会および植物分類地理学会の名誉会員について

庶務幹事 黒沢高秀

本学会会則第5条には、名誉会員についての定めがありますが、名誉会員に関連するまとまった記録がこれまでありませんでした。そこで、この場をお借りして、名誉会員の方々の一覧と、名誉会員関連事項を記しておきたいと思えます。学会統合後は新たな名誉会員の推薦は行われておらず、現在の名誉会員の方々、全て統合前に名誉会員になられた方と思われます。なお、これらの情報は、現在の庶務幹事の把握できた範囲です。特に植物分類地理学会に関しては、得られる情報が少なく、遺漏等がある可能性も強いと思えます。不完全な状況で記録する失礼をお詫びしますとともに、間違いのご指摘や、不明な点に関する情報のご提供をお願い申し上げます。

現在の名誉会員

岡田た江先生：2001年度より名誉会員(植物分類地理学会)

岡村はた先生：2001年度より名誉会員(植物分類地理学会)

木村陽二郎先生：1999年度より名誉会員(旧日本植物分類学会)

瀬戸 剛先生：2001年度より名誉会員(植物分類地理学会)

谷元峰男先生：2001年度より名誉会員(植物分類地理学会)

田村道夫先生：2001年度より名誉会員(植物分類地理学会)

初島住彦先生：1999年度より名誉会員(旧日本植物分類学会)

村田 源先生：2001年度より名誉会員(植物分類地理学会)

森 邦彦先生：1982年度より名誉会員(植物分類地理学会)

山崎 敬先生：1999年度より名誉会員(旧日本植物分類学会)

逝去された名誉会員 (1998 年以降)

印東弘玄先生 (2003.1.19 逝去, NL 14), 伊藤 洋先生 (2006.9.2 逝去, NL23), 北村四郎先生 (2002.3.21 逝去, NL 5), 佐竹義輔先生 (2000.3.4 逝去, JSPTNL 100), 鈴木兵二先生 (逝去, NL 17), 佐方敏男先生 (逝去, NL 18), 津山尚先生 (2000.10.16 逝去, JSPTNL 101), 平塚直秀先生 (2000.7.24 逝去, JSPTNL 103), 古沢潔夫先生 (2001.3.2 逝去, JSPTNL 103), 粕山泰一先生 (2000.3.31 逝去, JSPTNL 100),

(旧) 日本植物分類学会の名誉会員関連事項 (敬称略)

1. 1942 年「植物分類同志会」に設立発起 (日本植物分類学会会報 14(2):1-5)。
2. 1948 年「植物分類同志会」が「植物分類学会」と改称。この年を学会発足の年として扱っている (JSPTNL 90, 年頭に当たって参照)。
3. 1997 年度の評議員会, 総会で会則変更し, 名誉会員制度を新設 (JSPTNL 87: 6-8; 改定前の会則については JSPTNL 75 に全文が掲載されている)。「50 年以上在籍した通常会員, または本会の発展に特に大きく寄与した通常会員で会長が推薦し, 評議員会及び総会で承認を受けたもの」
4. 1998 年度の評議員会, 総会で名誉会員の推薦が行われ, 承認される (JSPTNL 91: 12-13)。1999 年 1 月 1 日付で 12 名が名誉会員となる (JSPTNL 95: 2-3)。50 年以上会員であったことの確認は, 植物分類同志会の昭和 21 年 (1946) の名簿を元にした (JSPTNL 91: 12-13)。
伊藤 洋, 印東弘玄, 北村四郎, 木村陽二郎, 佐竹義輔, 鈴木兵二, 津山尚, 初島住彦, 平塚直秀, 古沢潔夫, 粕山泰一, 山崎 敬
5. 1999-2001 年度の評議員会, 総会報告では名誉会員の推薦は行われなかったもので, 旧日本植物分類学会の名誉会員は以上の 12 名のみと思われる。

植物分類地理学会の名誉会員関連事項 (敬称略)

1. 1932 年「植物分類, 地理」発刊。
2. 1982 年 植物分類地理学会創立 50 周年記念総会で名誉会員に関する項の新設が承認される (植物分類, 地理 34(1-3): 裏表紙裏)。

「50 年以上継続して会員であった人を総会の承認を経て名誉会員とすることができる。名誉会員は無料で会誌の領受を受けることができる」。以下の 7 名が名誉会員に推薦され, 承認される。

犬丸 愨, 岡本省吾, 北村四郎, 佐方敏男, 島田玄弥, 竹田孝雄, 森 邦彦

3. 1983 年度以降に推薦され総会で承認された名誉会員は, 会報によると以下のとおり。
1983 年度 土井美夫 (植物分類, 地理 34: 212)
1988 年度 平塚直秀, 佐竹義輔 (植物分類, 地理 39: 105)
1989 年度 津山尚 (植物分類, 地理 40: 123)
4. 「植物分類, 地理」44 巻 (1993) 以降, 会員消息が掲載されるようになる。
5. 1998 年 最後の「植物分類地理学会会員名簿」発行。当時の名誉会員は以下の 6 名。
北村四郎, 佐方敏男, 佐竹義輔, 津山 尚, 平塚直秀, 森 邦彦
6. 1998-1999 年度総会名誉会員の推薦等はなし。
7. 2001 年度総会で以下の 6 氏を名誉会員とすることが承認された (やまぐるま 8: 8, ただし表題では「2000 年度総会」となっている)。
岡田た江, 岡村はた, 瀬戸 剛, 谷本峰男, 田村道夫, 村田 源
8. 2001 年度の総会が最後なので, 植物分類地理学会の 1998 年以降にご存命の名誉会員は以上の 12 名のみと思われる。
9. ただし, 1986 年の追悼文で名誉会員とされている原寛氏 (植物分類, 地理 37: 189) の推薦や承認は, 会報に出てこない。会報に掲載漏れがある可能性がある。

庶務報告 (2006年8月～10月)

庶務幹事 黒沢高秀

- ・高知県立牧野植物園による牧野富太郎没後50年企画「牧野富太郎の植物画の世界—画家の手、学者の眼—」(2006(平成19)年1月18日～3月18日)の後援依頼に対し、会長名で承諾した(10月30日)。

お知らせ

日本植物分類学会第6回大会および2007年度総会のご案内

第6回大会実行委員会

日本植物分類学会第6回大会を以下のように開催いたします。

大会のホームページ <http://env.sc.niigata-u.ac.jp/~masa/bunnrui6/>

【会場】 新潟大学医学部有壬記念館(発表・総会・シンポジウム)
ホテルイタリア軒(編集委員会 評議員会 懇親会)

【日程】 2007年3月14日(水)～3月17日(土)
3月14日 編集委員会, 評議員会(イタリア軒)
3月15日 一般講演, ポスター(有壬記念館)
3月16日 一般講演, 記念講演, ポスター(有壬記念館), 懇親会(イタリア軒)
3月17日 一般講演, 公開シンポ(有壬記念館)

【お問合わせ先】: 〒950-2181 新潟市五十嵐二の町 8050
新潟大・理・自然環境 高橋 正道
電話 025(262)6991 FAX 025(262)6991
Email: masa@env.sc.niigata-u.ac.jp

【発表の要領】

○一般講演

発表時間は、講演12分、質疑応答3分の計15分です。液晶プロジェクター、35mmスライド映写機およびOHPを用意いたします。発表・参加申込書に希望する発表媒体を記入してください。

- ・液晶プロジェクター:Windows XPを使用します。Microsoft PowerPointでファイルを作成し、CDRまたはCDRWに焼き付けたものを、**大会前の3月1日(木)までに**大会準備委員会あてに郵送してください。送られたファイルは発表順にハードディスクにコピーし、動作確認をいたします。当日の操作は発表者自身で行っていただきます。卓上に用意したパソコンのマウスまたはカーソルキーで操作してください。Power Pointは、Windows版のOffice 2003を使用します。Macintoshをお使いの方は、Windows用Office版に変換したファイルをお作りください。複雑なアニメーションなどは表示に時間がかかることがあるため、なるべく避けるようにご協力願います。当日のファイル受付はいたしません。念のためPower PointファイルをOHPシートに出力してご持参ください。

- ・35mmスライド:スライド映写のための人員は配置しませんので、スライドホルダーへの装填および機器の操作は各自で手配して行っていただくことになります。

○ポスター

ポスター発表用のパネルのサイズは、横1m x 縦90cmです。パネルの下には脚がつきます。(画鋏は大会準備委員会で準備します)。

【発表・参加申込方法】

できる限り電子メールで発表・参加申込をしていただくようお願いします。本ニュースレター 15 頁の「発表・参加申込書」に従って必要事項を入力し、タイトルを「学会申込」として masa@env.sc.niigata-u.ac.jp あてに添付ファイル送信してください（添付ファイル名はご自分のフル名前をお使いください）。発表・参加申込書は、大会 Website からダウンロードできますので、できるだけ、添付書類(Word)としてお送りください。送信してから3日経っても(土日・祝日を除く)大会準備委員会から受信の返事がない場合は、タイトルを「学会申込再送信」として、同じメールを送信してください。電子メールを利用できない方のみ、別紙の「発表・参加申込書」に必要事項を記入の上、大会準備委員会あてに郵送またはファックスしてください。

【口頭発表賞またはポスター賞へのエントリー】

大会発表賞(口頭発表賞、ポスター発表賞)にエントリーされる方は、「発表・参加申込書」の「9. 大会発表書へのエントリー」の項目で、「(1) する」を選択してください。メールで参加申し込みをする場合は、「大会発表賞にエントリーする」と明記してください。エントリーされた方の大会における実際の発表形式に応じて自動的に、口頭発表賞、ポスター発表賞、それぞれの候補者として割り振られます。なお、大会発表賞へのエントリー資格のある方は、パーマナント・ポストに就いていない若手研究者(ただし、年齢制限は特に設けません)で、筆頭発表者として実際に口頭、ポスター発表される方本人です。

【要旨】

本大会では指定の用紙を同封していません。作成例に従って、左右は 2cm、上下は 3cm の余白を取り、A4 判の用紙 1 枚に文字サイズ 12 ポイント以上でタイプしてください。発表題目の左には発表番号を印刷するための余白(4cm)が必要です。発表題目、1 行空白、発表者氏名(かっこ内に所属)、発表者氏名(英語)、1 行空白、要旨本文の順に記入し、実際に発表する演者の右肩に「*」を入れてください。図や表を入れることは可能ですが、グレイスケール(ハーフトーン)原稿は印刷の際つぶれてしまうおそれがありますのでご注意ください。要旨はそのまま B5 サイズに縮小して印刷・製本いたします。原稿はプリントアウトしたものを第 6 回大会準備委員会あてに郵便でお送りいただくか、ワードの文書ファイルを電子メールの添付書類(ご自分のフル名前をファイル名としてください)として送ってください。電子メールの場合は、タイトルを「講演要旨」として高橋正道あてに送信してください。送信してから3日経っても(土日・祝日を除く)大会準備委員会から受信の返事がない場合は、お手数ですがタイトルを「講演要旨再送信」とした上、同じメールを送信してください。なお、印刷の都合で体裁を変更する場合がありますのでご了承ください。パソコンの機種に依存する特殊文字は、文字化けする可能性がありますので、使用はお控えください。講演要旨のファックスによる送付は受け付けません。

発表・参加申し込み書式は 15 頁へ!**【申込の締め切り】**

発表者のみ:

発表申込・大会参加費振込	1月15日必着(電子メール、郵便またはFAX)
発表要旨原稿提出	1月30日必着(郵便または電子メール)
発表用 PowerPoint ファイル	3月1日必着(CDRまたはCDRWを郵送)

その他:

大会申し込み・懇親会申込・参加費振込 2月28日必着

※1月16日以降は金額が異なります。3月1日以降は振り込まずに当日受付で精算してください。

【要旨原稿の送付先】

〒950-2181 新潟市五十嵐二の町 8050 新潟大・理・自然環境 高橋 正道
 電話 025(262)6991 FAX 025(262)6991 Email: masa@env.sc.niigata-u.ac.jp

【参加費送金先】

口座名義：日本植物分類学会第6回大会準備委員会
 郵便振替口座番号：00550-7-95806
 ※郵便局備え付けの振替用紙をご使用になり、必ず振り込み金額の内訳（氏名・大会参加費・懇親会費等）を通信欄に記入して下さい。

【宿泊施設】

ホテルイタリア軒（懇親会、編集委員会、評議委員会の会場です）
 〒951-8061 新潟市西堀7番町1574
 TEL:025-224-5111 FAX: 025-224-7679 e-mail: front7@italiaken.com
 ホームページアドレス：<http://www.italiaken.com/>
 会員用の特別宿泊料金：シングル1泊朝食付き、税サービス料込み 8500円
 宿泊希望の方はホテルイタリア軒に日本植物分類学会会員として、直接メールでご連絡ください。

このほか、市内には多くの宿泊施設があります。各自でご予約ください。

【自家用車をご利用の方】

大会会場に駐車場はありません。市内の公営駐車場または宿泊施設の駐車場をご利用し、会場へは徒歩または市内バスをご利用ください。

【大会会場 有壬会館（新潟大学医学部学士会）へのアクセス】

新潟駅万代口（北側）を出ると、左側にバスの発着所があります。
 系統11または7に乗車して、市役所前で下車し、医学部を左側に見ながら、坂道を少し上っていきますと、右側に有壬会館（新潟大学医学部学士会）の建物があります。
 新潟大学医学部有壬記念館 〒951-8510 新潟市旭町通1-757
 新潟駅万代口より新潟交通バスで15分

アクセス方法：

新潟駅バスターミナルより：

- 系統11番 新潟駅—市役所—
信濃町—青山—西部営業所 行
- 系統11A番 新潟駅—市役所—
信濃町—浜浦町—新潟駅
（信濃町先回り新潟駅）行
- 系統7番 新潟駅—市役所—
県庁前で、
「市役所前」下車。徒歩5分

高速バスより：

- 高速バス「市役所前」下車。徒歩3分。



【参加申し込み（割引）と講演申し込み】

受付期間：2006年10月1日～2007年1月15日

1月15日までに振込の場合	4,000円(一般)	2,000円(学生)
1月16日以降振込と当日申込の場合	5,000円(一般)	3,000円(学生)
要旨集のみの別売価格	1,000円	

【懇親会】

1月15日までに振込の場合	7,000円(一般)	5,000円(学生)
1月16日以降振込と当日申込の場合	8,000円(一般)	6,000円(学生)

【昼食】

有壬会館への飲食物の持ち込みはできないことになっていますので
昼食は会場の近くのレストランでとっていただくことになります。

【公開シンポジウム】

3月17日(土) 有壬記念館において

「新生代の地球環境変遷と地域フロラの分化プロセス」

～6500万年の新生代の地球環境とフロラの変遷が、今、解き明されようとしている～
シンポジウム世話人 高橋正道 西田治文

斉藤 毅	「日本の新第三紀花粉化石群集と地球環境変遷」
百原 新	「第三紀末から第四紀の日本列島の島嶼化と日本固有植物の分化プロセス」
寺田 和雄	「南米パタゴニアの第三紀植物化石からみた気候と植生の変遷」
西田 治文	「チリ南部パタゴニアにおける暁新世鉱化植物化石群の発見とその意義」
金 京植・鈴木 三男	「日韓の中新世材化石フロラの相同性と分化」

会費納入のお願い

会計幹事 田中法生

本学会の会費は前納制で、前年の12月末日までにお納め頂くことになっております。会員の皆様の会費納入状況はニュースレター本号の送付宛名の右下に「納済年度：〇〇〇〇」として示されております(自動振替をご利用の方は数字の代わりに「自動振替」と記入されています)。例えば、「2005」の方は2006,2007の2ヵ年分をお納めいただくことになります。この数字が2007未満の方は、2006年12月末日までに同封の郵便振替用紙にて、該当する金額を納入頂きますよう、よろしく願い申し上げます。

- 年会費 一般会員 5,000円, 学生会員 3,000円, 団体会員 8,000円
- 郵便振替口座 口座番号 00120-9-41247
加入者名 日本植物分類学会

本学会では自動振替をご利用頂けるようになっております。ご希望の方は、会計幹事までお知らせください。ただし、2007年度分の引き落とし手続きはすでに終了しておりますので、ご利用は2008年度分からになりますので、ご了承下さい。

その他、会費納入に関してご不明な点がございましたら、会計幹事(連絡先はニュースレター巻末)までお問い合わせください。

平成 18 年度日本植物分類学会講演会のご案内

田村 実 (大阪市立大学大学院理学研究科)

平成 18 年度日本植物分類学会講演会は、大阪学院大学の林一彦さんに会場をお世話頂いて、次の通り開催いたします。

【日時】 2006 年 12 月 9 日 (土) 午前 10 時～午後 4 時 40 分

【講演会場】 大阪学院大学 2 号館地下 1 階 2 号教室 (O2-B1-02 教室)

〒 564-8511 吹田市岸部南二丁目 36 番 1 号 電話: 06-6381-8434

【プログラム】

10:00～10:05 ご挨拶

10:05～11:05 志賀 隆 (大阪市立自然史博物館)

「日本のコウホネ属 (スイレン科) は分類できるのか？」

11:15～12:15 池田 博 (岡山理科大学総合情報学部)

「ヒマラヤの花—極限の世界に生きる植物たち— (スライド講演)

12:15～13:20 昼食

13:20～14:20 寺田和雄 (福井県立恐竜博物館)

「最初期の被子植物 *Archaeofructus* の復元模型製作で見出した新知見」

14:30～15:30 戸部 博 (京都大学大学院理学研究科)

「被子植物の最初の胚のうは 4 核, 8 核, あるいは 9 核？」

15:40～16:40 河原孝行 (森林総合研究所北海道支所)

「シベリア・サハリンの植物

—バイカル, ウラジオストック, サハリンの調査から— (スライド講演)

【その他】

講演会終了後、大阪学院大学の林一彦さんにお世話頂いて、懇親会を予定しています。

【会場までのアクセス】

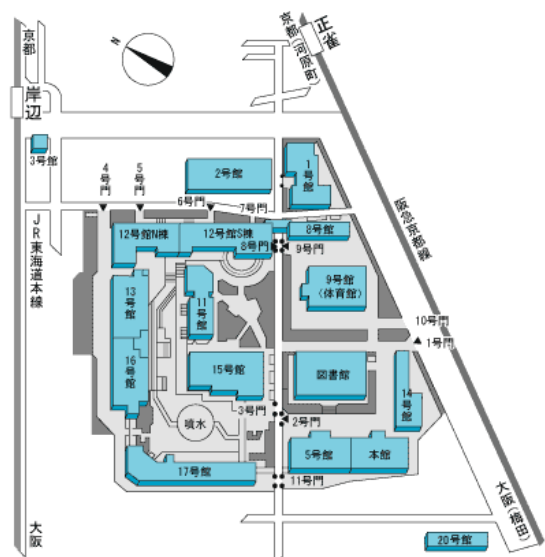
JR 東海道本線岸辺駅、阪急京都線正雀駅から大阪学院大学までともに徒歩 5 分。

【講演要旨 (執筆は各演者)】

「日本のコウホネ属 (スイレン科) は分類できるのか？」

志賀 隆 (大阪市立自然史博物館)

コウホネ属は形態的な変異が大きいことから、分類学的な再検討が必要とされている水生植物の一族である。本発表では、コウホネ属の大きな形態変異と雑種形成、地理的変異の関係を中心に、日本産コウホネ属の分類について概説する。



「ヒマラヤの花—極限の世界に生きる植物たち—」

池田 博(岡山理科大学総合情報学部)

演者は1995年の講演会で、「ヒマラヤの花—ネパールヒマラヤを中心に—」というタイトルで講演を行なった。今回は、ヒマラヤと関連する中国西南部(横断山脈, 青藏高原)に生育する高山植物を中心として紹介したい。

「最初期の被子植物 *Archaeofructus* の復元模型製作で見出した新知見」

寺田和雄(福井県立恐竜博物館)

最古の被子植物 *Archaeofructus* 2種の復元模型を製作した過程で、両種の生態的戦略に関連した形態や開花様式の差異に気づいた。最初期被子植物で花の形成順序に関わる分化を既に確立していた可能性がある。

「被子植物の最初の胚のうは4核, 8核, あるいは9核?」

戸部 博(京都大学大学院理学研究科)

被子植物の胚のうは7細胞8核としてよく知られ、その形成様式はいわゆる Normal type あるいは Polygonum type として教科書でもよく紹介されてきた。一方、この10年足らずの間に *Amborella*, スイレン目, Austrobaileyales が原始的被子植物であることが明らかになった。*Amborella* では7細胞8核の胚のうがいち早く発表され(Tobe et al., 2000), ついでスイレン目の一部(*Nuphar*) (Williams

and Friedman, 2002) と Austrobaileyales の一部 (*Kadsura, Illicium*) (Friedman et al., 2003; Williams and Friedman, 2004) で4細胞4核の胚のうが再確認あるいは明らかにされ、被子植物の最初の胚のうは8核ではなく4核ではないかという可能性が議論され始めた。さらに、最近、*Amborella* では8核ではなく、最終的に9核になることが報告された(Friedman et al., 2006)。しかし、この報告には、8核から9核への発生が、1助細胞の細胞分裂によって起こるなど、通常の胚のう形成には見られない内容が含まれ、疑問も多い。本講演では、Austrobaileyaceae(目のなかでは最も基部に位置する)も4核の胚のうをもち、したがって全ての Austrobaileyales が4核の胚のうをもつこと、さらに *Amborella* の胚のうについて再度の観察を行った結果を報告し、被子植物の胚のうの原始形質について話題を提供したい。

「シベリア・サハリンの植物—バイカル, ウラジオストック, サハリンの調査から—」

河原孝行(森林総合研究所北海道支所)

ロシア共和国連邦には、1995年9月バイカル湖周辺植生調査、2002年~2003年サハリン高山植物調査、2006年ウラジオストック周辺アツモリソウ類調査で訪れた。これらの地域は特に日本を分布の南部とする植物にとって分類学及び植物地理学上重要な地域となっている。調査中に見かけた植物を生態も含めて紹介したい。

書評依頼図書

庶務幹事 黒沢高秀

下記の図書が書評依頼図書として学会事務局に届いています。書評の執筆を希望される方は学会事務局まで電子メール(kurosawa@sss.fukushima-u.ac.jp)や葉書等でご連絡下さい。なお、執筆者には該当図書を差し上げます。

1. 津野祐次著・撮影(2006)「花かおる仙丈ヶ岳・東駒ヶ岳」
112 pp. ほおずき書籍. 1000円.
2. 峰の原高原観光協会編著(2006)「花かおる信州須坂峰の原高原」
104 pp. ほおずき書籍. 952円.

本の紹介

「キヨスミウツボの生活 神戸市押部谷町木見新池での保全のとりくみから」 中西 収・小林禧樹・黒崎史平 著

様々な角度からキヨスミウツボの生活史を解明した著者ら渾身の1冊だろう。珍奇な寄生植物キヨスミウツボ（ハマウツボ科）群落が神戸市で見つかり、その保全を目指して10年以上にわたって繰り返された地道な研究活動の記録でもある。著者のご厚意で学会員には送料込みで2,000円での頒布となります。

本書を読み進めると、この研究で明らかになったキヨスミウツボの複雑な実態に衝撃を受ける。核型に2倍体、3倍体、4倍体の3タイプがあり、それぞれに花柱と花糸の長さ、花粉サイズ、芳香の有無が対応しているという。芳香型（2倍体、長柱花）、中間型（3倍体、中間型）、無香型（4倍体、短柱花）の3タイプの発見にとどまらず、芳香型は他殖性だが無香型は自殖性であること、中間型は有性繁殖を行っていないことを明らかにするなど、すばらしい成果が得られている。キヨスミウツボのような稀少な寄生植物で、どうしてこのような多様性が分化しているのか思わず考え込んでしまう。

興味深かったのは、キヨスミウツボが液果であることだ。35頁の果実の横断面写真を見ると、周食者への報酬は肥厚した胎座のように見える。子房の成長過程を追跡して確認する必要はあるが、このようなタイプの果実はそんなに多くない気がするのだがどうだろう。そういえばギンリョウソウの果実も同じではないだろうか。もう1点注目されることは、ネズミとともにマダラカマドウマが周食型の種子散布者になっている可能性である。直翅目昆虫が種子散布者になり得るなんて驚愕だ。直翅昆虫マニアの私としては、小躍りする情報である。森田（1990）は、ギンリョウソウについて「ふつう乾果にできるダストシードがしょう果にできる点は不可解である」と述べているが、キヨスミウツボとギンリョウソウおよびそれら以外の様々な植物についても齧歯類や昆虫による周食散布の可能性を見直

す必要があるのではないだろうか。

蛇足ながら、オールカラーページで2,000円という値段はお買い得。

引用文献

森田竜義. 1990. ギンリョウソウ. 河野昭一（監修）: Field Watching1 新緑の季節を歩く, 112-115 p. 北隆館, 東京.

■「キヨスミウツボの生活」の購入方法

下記へ直接申し込んでください。今回の学会員の頒布に限り、送料込みで1冊2,000円となります。お申し込みの際に、「日本植物分類学会員」と申し出て頂くようにお願いします。

兵庫県植物研究会 小林禧樹
〒673-0865 明石市大蔵清水谷 583-36
Tel & Fax: 078-911-0034
E-mail: arminus@kpa.biglobe.ne.jp

（藤井伸二：人間環境大学・環境保全）



いきもの便り

ドーヴァー海峡を渡るヒマヤンモンスーンを夢見る異国の植物たち——

池谷祐幸（農研機構果樹研究所）



Jermyn' s House. 園内にある Victorian 様式の邸宅。右側の棟は現在では研究室だが、左の棟は会議や結婚披露宴にも貸し出されている。

本年5月に、Kew と BM へ標本調査に行ってきた。真っ当な研究者ならば、大事な標本の記憶が脳内メモリーから脱落する前に、いそいそと帰国すべきなのであろうが、Mayflower の咲き乱れるこの季節に、パリ程は美しくないロンドンの散策で終わってしまうのは余りにもったいない。そこで、かねてより気に留めていた Sir Harold Hillier Gardens を訪れることにした。

この植物園は、Hillier Nursery の経営者であった Sir Harold Hillier が、1953 年に作り始めた樹木園を元とする。現在では 70ha 強の敷地に、温帯性の樹木を中心に 12,000 点の植物が植栽されている。ロンドンの南西約 100km の所にありドーヴァー海峡にも近い。

ハーバリウムで有名な訳ではなく交通の便も悪いので、研究者ならずともここを訪れた日本人はそう多くはないだろう。しかし、温帯の樹木を扱った者ならば、今ほど情報が豊かでなかった頃、標本ですら国内には満足になかった異国の樹木を、写真とはいえ見せてくれた Hillier の名を冠した樹木マニュアルや図鑑類を手にした人も多いのではないか。

この、海外原産の生きた植物を国内ではなかなか見られない状況は、今でもさほど変わらない。熱帯の植物ならばともかく、欧州原産の温帯の樹木でも日本では生個体を見られないものが幾つもあるが、ここではナシ属、リンゴ属、ナナカマド属、アズキナシ属など様々な樹木を眺めることができた。多くの個

体は植栽後 30 年以下の若い木だが、皆すくすくと伸びて5月の空を覆っていた。ヒマラヤや雲南原産の種でも見事に育っていた。気象データを見ると、確かにそれらの地域と気温は似ているが夏場の降水量は非常に少ない。でもこの穏やかな気候の方が、虫も病気も付かず、激しい競争にもさらされず、植物達にとっては過ごしやすいのかも知れない。

訪れたのは平日で、また周辺人口は 100 万人もないはずだが、それなりの入場者が見られた。ガーデニングの見本園などもあったが、殆どの人は、花々を楽しみながら何となく散策するか、眺めはきれいでも遊具などはない敷地で子供を遊ばせるかで、日本の植物園なら必須アイテムの「メモ帳片手に写真を撮りまくるマニア系の人々」は、3日間で1人（+自分？）見かけたただけであった。



上：*Aria thibetica*（アズキナシ属）。原産は四川～チベット。ホオノキ並みの葉を持つウラジロノキという所か。

下左：*Sorbus vilmorinii*（ナナカマド属）。原産は四川～雲南。果実は白から桃色のはず。

下右：*Mespilus germanica*（セイヨウカリン）。欧州原産の果樹。中世にはよく知られていたが今は忘れられつつある。

日本植物分類学会第6回大会「発表・参加申込書」

以下の内容について、必要事項を記入の上、メールまたはファックスで送信して下さい。



新潟大会

あて先： 日本植物分類学会第6回大会準備委員会

メールアドレス masa@env.sc.niigata-u.ac.jp

ファックス 025-262-6991

この申込書は、大会 Website からダウンロードできますので、可能な方は Word 添付書類としてお送りください。

1. 名前（ふりがな）：
2. 所属：
3. 所属の短縮表記：
4. 連絡先住所：〒
5. 電話番号：
6. ファックス：
7. 電子メールアドレス：
8. 発表（該当する番号を記入してください）：
 - する： (1) 一般講演 (2) ポスター (3) どちらでも良い
 - しない： (4) 発表しない (5) 共同研究者が発表する（発表者氏名 _____）
9. 口頭発表賞またはポスター賞のエントリー
 - (1) する (2) しない
10. 口頭発表での媒体（該当する番号を記入してください）：
 - (1) パソコン用液晶プロジェクター (2) スライド (3) OHP
11. 懇親会（該当する番号を記入してください）：
 - (1) 参加する (2) 参加しない
12. 発表者氏名・所属（演者の右肩に*印）：
13. 演題：
14. 大会参加費（振込期日に注意すること）： 円
 - 1月15日以前振込の場合 4,000円（一般） 2,000円（学生）
 - 1月16日以降振込と当日参加の場合 5,000円（一般） 3,000円（学生）
15. 懇親会費（振込期日に注意すること）： 円
 - 1月15日以前振込の場合 7,000円（一般） 5,000円（学生）
 - 1月16日以降振込と当日参加の場合 8,000円（一般） 6,000円（学生）
16. 弁当 会場内に弁当等の食品の持ち込みはできません。
17. 講演要旨集別売（1部1,000円）： 円
 - *大会参加費には講演要旨集1冊の代金が含まれています。
18. 合計金額： 円
19. 振込郵便局名：
20. 振込日：

郵便振替口座名称： 日本植物分類学会第6回大会準備委員会
 郵便振替口座番号： 00550-7-95806

入会申込, 住所変更, 退会届, 会費納入, 購読
申込などは下記へご連絡ください。

〒 305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1
国立科学博物館筑波実験植物園
日本植物分類学会 田中法生 (会計幹事)

Phone: 029-853-8433

Fax: 029-853-8998

E-mail: ntanaka@kahaku.go.jp

会 費: 一般会員 5,000 円, 学生会員 3,000 円,
団体会員 8,000 円

郵便振替: 00120-9-41247

名 義: 日本植物分類学会

平成 18 (2006) 年 11 月 13 日印刷

平成 18 (2006) 年 11 月 17 日発行

編集兼 福岡市東区箱崎 6-10-1

発行人 九州大学総合研究博物館

三島美佐子

発行所 福島市金谷川 1

福島大学共生システム理工学類内

日本植物分類学会